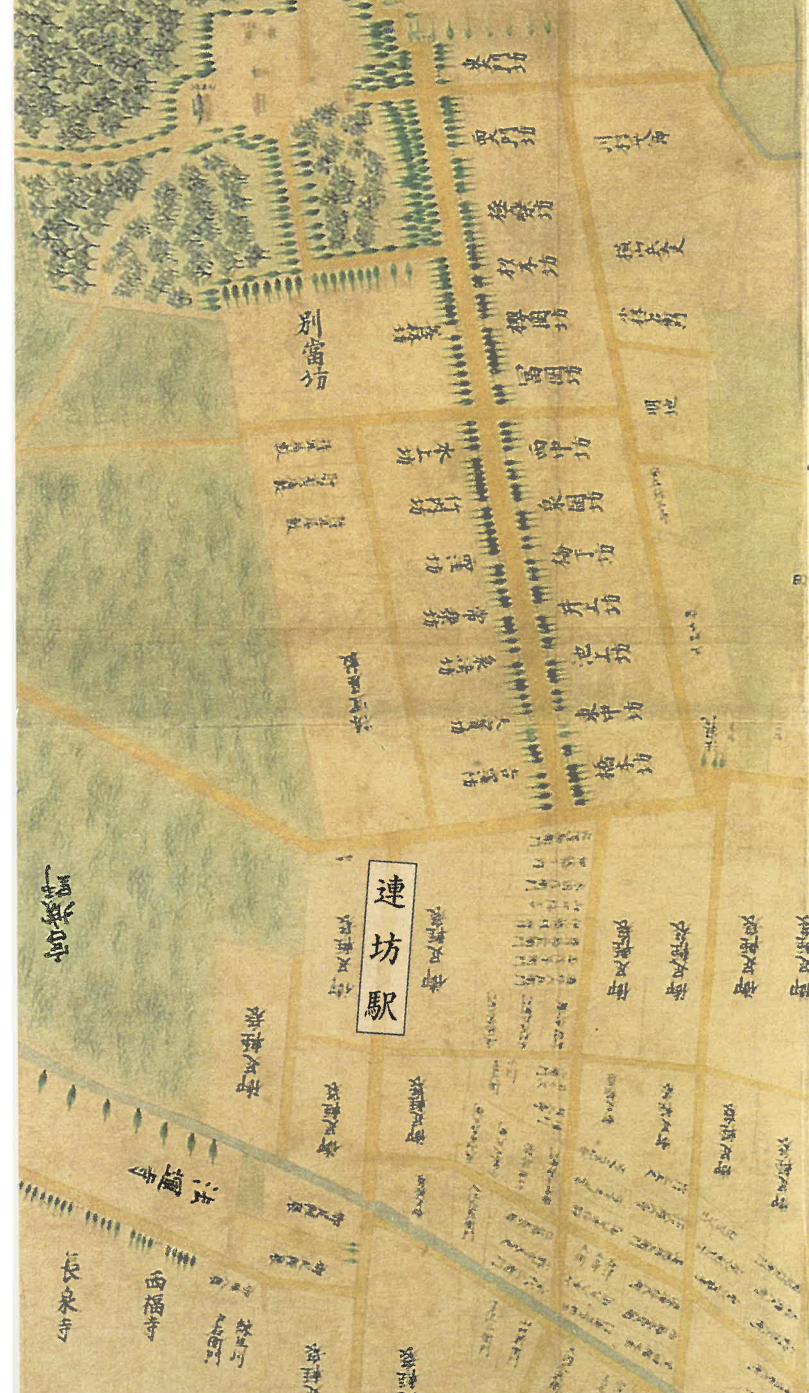


連坊駅

Renbo station



昔、陸奥国分寺が隆盛であった頃、木ノ下には二十四坊の塔頭があり、この二十四坊に通ずる道路だったので連坊小路と称されたとされています。

連坊という地名は日本国内ここだけにしかありません。
歴史的な魅力たっぷりの連坊周辺をぶらり散策してみたいかたがでしょうか。

【連坊駅周辺の指定・登録文化財】

● 県指定有形文化財

せいがいまん だら じょうかくじ
清海曼陀羅図 (成覚寺所蔵) **MAP ②**

室町時代につくられた曼荼羅図で、紺地に金銀泥で描かれています。寛永7年(1630)に京都法林寺から伝来したと伝えられています。

しょうかんのん じょうかくじ
木造聖観音像 (成覚寺所蔵) **MAP ②**

平安時代につくられたヒノキ材で一木造の観音像。仙台北下大町の商人高屋弥七が静岡県の南禅寺から移して成覚寺に奉納したと伝えられています。

● 市指定文化財

じょうかくじ さんもん
成覚寺山門 **MAP ②**

仙台藩四代藩主伊達綱村の生母三沢初子の墓所に設けられていた霊屋門を移建したものと伝えられます。

びしゃもん どうからもん
毘沙門堂唐門 **MAP ⑪**

江戸時代中期頃に建築したと考えられる平唐門。比較的小規模な門ですが重厚で洗練された意匠を持っています。

たいしんいんさんもん
泰心院山門 **MAP ⑫**

仙台藩藩校養賢堂の正門を移建したものの。養賢堂の諸建築は戦災で焼失したため、この門は養賢堂唯一の現存する遺構です。

● 市登録文化財

しょうおん じさんもん
松音寺山門 **MAP ⑤**

寛永16年(1639)に、若林城の城門を二代藩主伊達忠宗から拝領したものと伝えられています。

れいげん じさんもん
冷源寺山門 **MAP ⑭**

両脇に潜り戸付きの袖塀を持つ薬医門。天保8年(1837)に門を寄進したとの記録があります。

連坊駅の となり 薬師堂駅 近くには...

国史跡	陸奥国分寺跡
国名勝	おくのほそ道の風景地「木の下及び薬師堂」
国重要文化財	陸奥国分寺薬師堂
県指定文化財	陸奥国分寺薬師堂仁王門 白山神社本殿



陸奥国分寺は天平13年(741)に聖武天皇が詔を出し、国ごとに国分寺と国分尼寺をつくるように命じて造られた寺のうちの一つで、日本最北の国分寺でした。

国史跡陸奥国分寺跡は昭和30年から本格的な発掘調査が実施され、大規模な寺院跡であったことが明らかになりました。伽藍は東西800尺(242m)、南北はそれ以上の規模で築地塀(土をつき固めてつくった土塀)がめぐっていました。

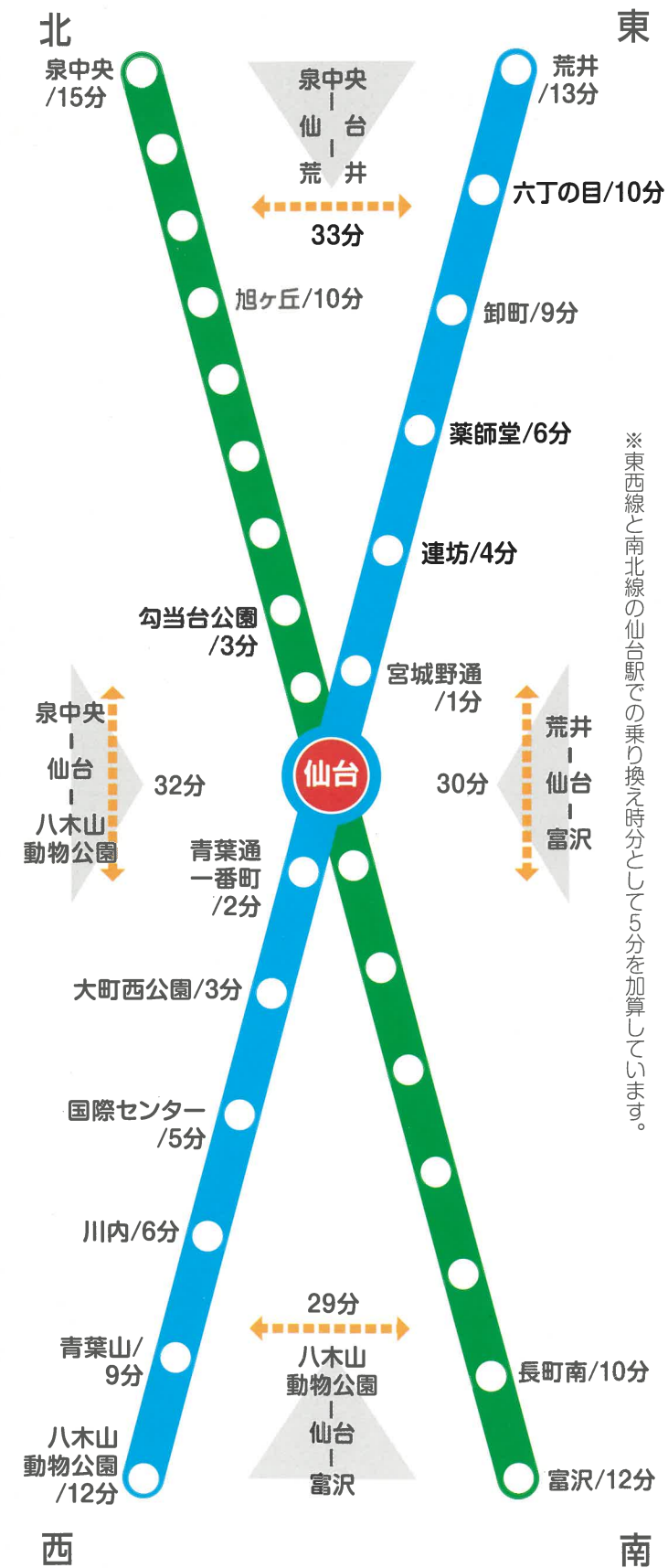
陸奥国分寺薬師堂は江戸時代の初め、伊達政宗が慶長12年(1607)に陸奥国分寺を再興して創建しました。陸奥国分寺跡の講堂の真上に建てられたことが分かっています。現存する仙台最古の木造建築物の一つです。

名勝「おくのほそ道の風景地」は、東北・北陸地方を旅した松尾芭蕉が、自らの俳句を織り交ぜて紀行文学として編んだ『おくのほそ道』に登場する一群の風致景観で、今なお当時の雰囲気を受け継ぎ、その風景を偲ぶよすがとなる場所が指定されています。芭蕉は『おくのほそ道』のなかで、日影も漏らさぬほどに繁った「木の下」の松林とともに深い露に濡れており、古今集「みさぶらひみかさと申せ宮城野の 木の下露は雨にまされり」(詠み人知らず)の一節を思い起こしています。

連坊駅へのアクセス

平成27年12月6日に開業した仙台市地下鉄東西線で仙台駅より約4分、運賃は200円です。

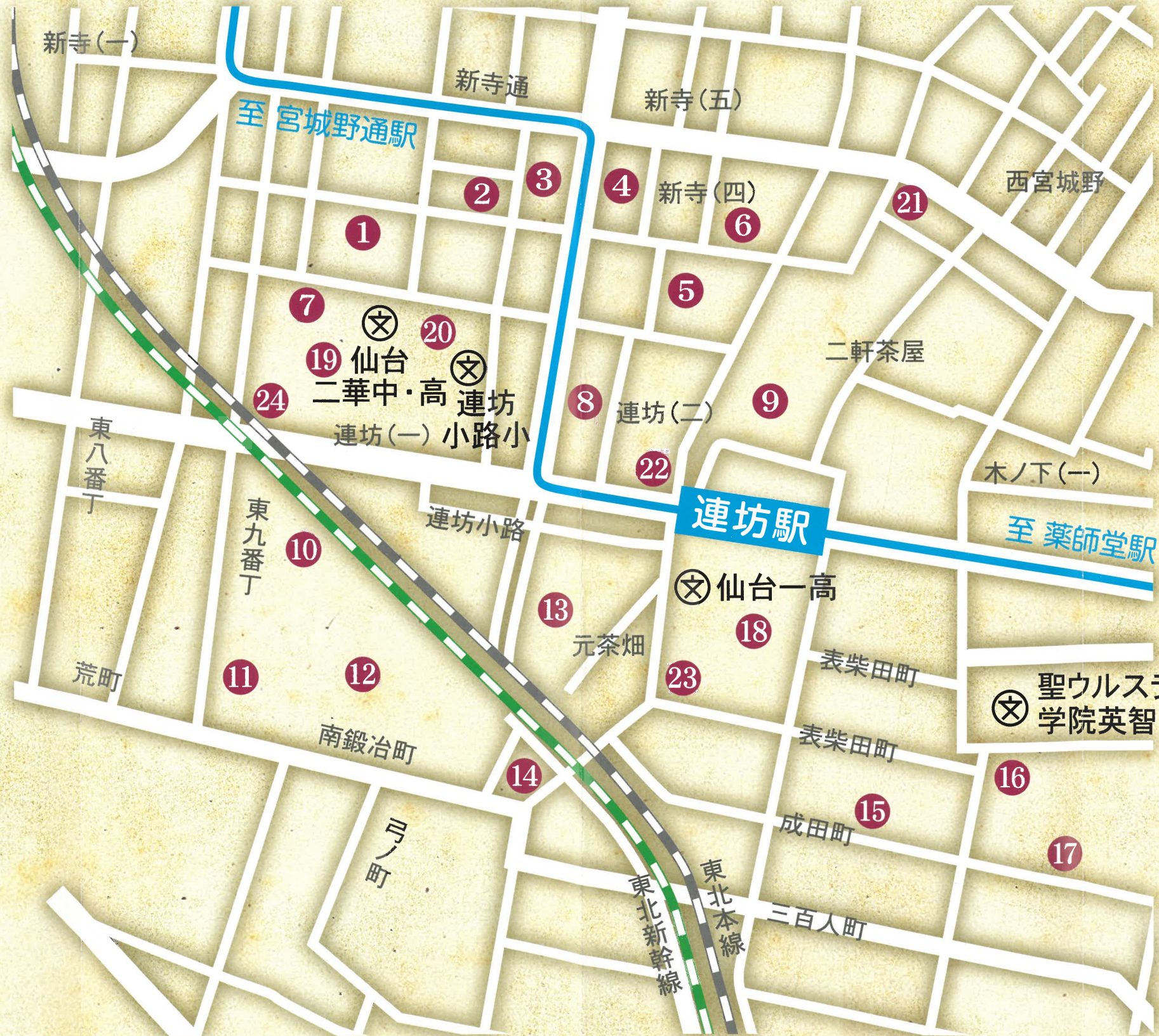
仙台市地下鉄路線図



※東西線と南北線の仙台駅での乗り換え時分として5分を加算しています。

発行: 仙台市教育委員会(214-8893)
発行日: 平成28年2月
取材・編集: 仙台・文化財サポーター会

連坊駅周辺MAP



こうじゆいん
① 光寿院



じょうかくじ
② 成覚寺



くどんいん
③ 愚鈍院



みょうしんいん
④ 妙心院



しょうおんじ
⑤ 松音寺



だいにんじ
⑥ 大林寺



さいしやういん
⑦ 裁松院



ずいうんじ
⑧ 瑞雲寺



ほううんじ
⑨ 法運寺



ほじゆじ
⑩ 保壽寺



びしゃもんどう
⑪ 毘沙門堂



たいしんいん
⑫ 泰心院



とうぜんじ
⑬ 東漸寺



さんぼうこう
⑭ 三宝荒神社



はこいし
⑮ 箱石神社



しらとり
⑯ 白鳥神社



れいげんじ
⑰ 冷源寺



宮城県
仙台第一
高等学校



宮城県
仙台二華
中学校・
高等学校



⑳ 連坊小路
小学校



㉑ 辻標:新寺小路
二軒茶屋



㉒ 辻標:長泉寺横丁
連坊小路



㉓ 辻標:表柴田町
元茶畑



㉔ めがね橋



Renbo

連坊駅周辺の主な寺社



① 光寿院 (曹洞宗 喜雲山)

天正7年(1579)伊達氏15世晴宗夫人久保姫(栽松院)が、護持仏の聖観音を祀るため開基となり、慶昌院を創建。4世文綴和尚の時、伊達氏の移封に伴い名取郡増田に移転。政宗がたまたま鷹狩りに来て慶昌院で休息した折、創建の由来を知り、三石の寺領を与えて現在地を賜り、寺号を喜雲山光寿院と改めました。仙台三十三観音第十八番札所。叢塚、経塚があります。



② 成覚寺 (浄土宗 十劫山)

政宗の仙台開府とともに岩出山から現地に移転しました。清海曼陀羅図と木造聖観音像は宮城県指定文化財。仙台市指定文化財の山門は四代藩主綱宗の生母三沢初子の霊屋門で、明治初期に孝勝寺から移建されました。仙台三十三観音第十六番札所。



③ 愚鈍院 (浄土宗 五劫山)

創立慶長7年(1602)、開山は呑茶和尚で、政宗から寺地として六百間の地(現在の仙台駅地)並びに院号を拝領しました。元和3年(1617)に現在地に移転。境内のコツギヤは樹齢250年で仙台市保存樹木。仙台三十三観音第十五番札所。



④ 妙心院 (曹洞宗 稲荷山)

政宗の乳母である片倉喜多子のために、政宗の母保春院が山形県長井に創建しました。後に岩出山を経て現在地に至ります。俳人松尾芭蕉が東遊行脚の途中仙台的友人宅に忘れていった蓑を埋めた「蓑塚」があります。



⑤ 松音寺 (曹洞宗 五峯山)

伊達家十一世持宗により福島国見町に建立されました。十三世尚宗が父成宗を葬り、開基としました。丸森を経て、仙台開府とともに仙台に移りました。政宗により、幼くして死去した五男宗綱が葬られ、中興開基とされます。墓地には開基とされる二人の墓が並んでいます。山門は、政宗が晩年を過ごした若林城の正門を伊達家より寄進されたものと言われ仙台市登録文化財になっています。仙台三十三観音第二十三番札所。



⑥ 大林寺 (曹洞宗 森城山)

参道の入り口に「森城山大林寺」の石碑があります。大林寺は天文元年(1532)伊達家14世植宗が山形県米沢に創建。政宗が米沢から岩出山、仙台へと赴くときに、岩出山から現在地に移りました。「荒城の月」の作者である詩人土井晩翠の墓があります。境内のカヤは樹齢250年で仙台市の保存樹木。仙台三十三観音第十四番札所。



⑦ 栽松院 (曹洞宗 耕徳山)

政宗は祖母栽松院の牌寺として、慶長6年(1601)に栽松院を創建。仙台城の真東にあり寺地決定させた推定樹齢千年のシラカシは「政宗公遺愛の榿」と称される仙台市指定保存木。仙台の名称の語源といわれる千鉢仏を納めた「千佛閣」、伊達騒動の「伊藤七郎重孝の墓」があります。



⑧ 瑞雲寺 (曹洞宗 金秀山)

文安元年(1444)開山、瑞巖寺と称し米沢にありましたが、政宗に従い岩出山を経て仙台に移りました。慶長11年(1605)政宗は、松島の円福寺を再興し瑞巖寺と称したため、瑞雲寺と改めました。観音堂の本尊如意輪観音は慈覚大師の作と伝えられています。境内には俳人松洞馬年と芝不器男の二つの句碑が建立されています。仙台三十三観音第二十一番札所。



⑨ 法蓮寺 (日蓮宗 廣潤山)

寛永14年(1637)、政宗の死去に際し殉死した仙台藩士青木友重の弟、日悟が僧籍にあった為、二代藩主忠宗が開きました。境内西側に男女問題の解消、人気商売繁栄に霊験があるとされる於岩稲荷明神と、たわしで身体の悪いところをこするとご利益があると言われる浄行菩薩のお堂があります。樹齢豊かなシダレザクラとサルズベリが生えています。



⑩ 保壽寺 (曹洞宗 福現山)

文安元年(1444)に七北田の洞雲寺末寺として、伊達氏以前この地を所領としていた国分氏が牌所として開きました。国分氏滅亡後も伊達氏により保護されています。明治19年の東北線工事の際境内が縮小、国分盛重が祀った鎮守大杉稲荷大明神社も移されました。仙台三十三観音第二十二番札所。



⑪ 毘沙門堂

寛永20年(1643)造営。江戸中期頃の唐門は仙台市指定文化財になっています。毘沙門堂に安置されている毘沙門天は寅年御開帳。子育て観音、奥州七福神、別当満福寺(金光山)には江戸時代の横綱「秀の山」碑や、大町出身の行司「7代目式守伊之助」墓があります。



⑫ 泰心院 (曹洞宗 三陽山)

政宗の曾祖父・植宗の夫人泰心院の菩提寺として米沢で創建されました。岩出山を経て慶長12年(1607)仙台の現在地に移されています。山門は、勾当台にあった仙台藩藩校・養賢堂の正門が明治維新後に移築されたもので、仙台市指定文化財となっています。伊達家の家紋「三引両」と「九曜」を配した漆喰塗の棟や細部の装飾など重厚な外観です。養賢堂は昭和20年の戦災で焼失したため、この門は養賢堂唯一の現存する遺構です。



13 東漸寺 (浄土真宗 仏法山)

寺名の由来は西方浄土の教えが東へ東へと広まるようにとのことで、政宗より寺地と山号を賜ります。平成15年からの都市計画道路工事に伴い現在地に移転しました。「鐘楼門」や第四代横綱「谷風の碑」、「宮城県原爆被爆者追悼の塔」などがあります。



16 白鳥神社

表柴田町に鎮座しています。この町は柴田郡金ヶ瀬村から召し出された足軽の居所で、これ等の住民が故郷の守護神、大高山神社の分神を遷したのが起源といわれています。今も町内の信仰を集め、祭りには露店が出てにぎわいます。尚、白鳥神社の前の道は奥州街道以前の幹線道路だった旧東街道です。この道は律令時代の東山道を継承した可能性も考えられています。



14 三宝荒神社

政宗に従ってきた鍛冶職人達が、元和年間(1620年頃)に「火伏の神」として建立したものです。仏教で言う仏、法、僧のあわせて三宝を護持する神を「三宝荒神」と呼んでいます。耳患いの時「願」をかけると完治するといわれ、多くの信仰を集めた「耳権現」があります。境内の銀杏は仙台市保存樹木に指定されています。



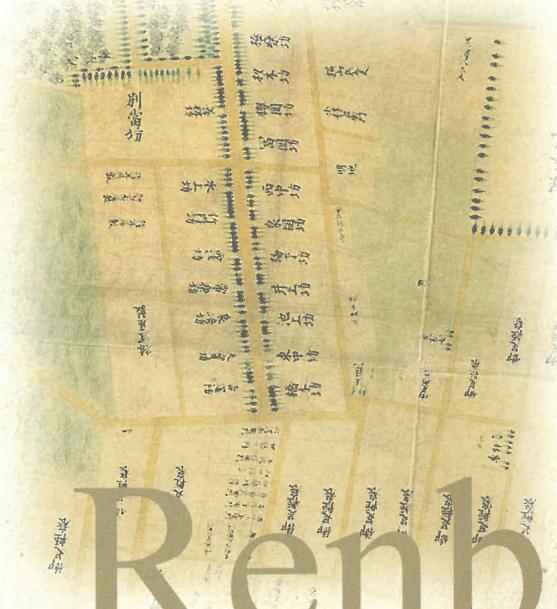
15 箱石神社

御祭神は坂上高道公(坂上田村麻呂の子)。慶長18年(1613)、桃生郡成田村(現河北町)出身の足軽達(葛西氏に仕えた)が、主家滅亡後伊達氏に取り立てられ、現成田町に移住。故郷の氏神を勧請したのが起源です。成田の氏神は貞観5年(863)蝦夷との戦いで戦死した坂上高道が、龍となって暴風雨を起こしたので、その霊を静めるため祀りました。例祭日は5月19日。



17 冷源寺 (浄土真宗 宝永山)

慶安2年(1649)の開山。山門は天保8年(1837)に建立された古建築として仙台市登録文化財です。仙台での相撲興行中に亡くなった力士「滝の音磯五郎」と行司「式守定之助」の墓が並んでいます。日本のパレオ界の先駆者東勇作の記念碑も立っています。



連坊周辺の学校



18 宮城県仙台第一高等学校

明治25年(1892)に宮城県尋常中学校として設立。平成22年より男女共学化。校訓は「自重献身」。卒業生井上ひさし氏の小説「青葉繁れる」には一高生の青春がユーモラスに描かれています。



19 宮城県仙台二華中学校・高等学校

平成22年に宮城県第二女子高等学校を改め開校した男女共学中高一貫教育校。明治19年(1886)宮城英学校として開学。設立には仙台出身で日銀の第二代総裁となった富田鐵之助や同志社大学の創始者新島襄が関わっています。著名な出身者には千嘉代子(茶道裏千家14代家元夫人)等がいます。



20 連坊小路小学校

明治19年、公立学校がなかった今の連坊学区に、当時の松音寺住職木村文明を中心とする曹洞宗の住職達の協力により、「大林寺」境内に私立連坊小路尋常小学校として誕生。明治21年に松音寺境内跡(現在地)に移転。明治36年に市立尋常小学校になるまで16年余り、私立また市立代用学校として地域の子弟教育にあたりました。昭和16年連坊小路国民学校、同22年仙台市立連坊小路小学校。

連坊周辺の辻標など



21 辻標:新寺小路 二軒茶屋



22 辻標:長泉寺横丁 連坊小路



23 辻標:表柴田町 元茶畑



24 めがね橋 (若林区連坊1丁目)

連坊のシンボル「めがね橋」は、初め赤レンガ製の橋台が二重橋のようにアーチ型でした。現在の橋は二代目で、東北本線が複線になった大正8年に架け替えられたものです。鉄道線路を境に、西を上連坊、東を下連坊と言います。陸奥国分寺や白山神社への参道でもありました。95年の世相の推移を風雪酷暑に耐えながら、めがね橋は連坊の街を見つめています。